

萌芽的研究論文

## COVID-19 パンデミックにおける フェミニズム運動の視座と実践

——南米チリを事例として——

柳 原 恵

本論文の目的は新型コロナウイルス感染症パンデミック下の南米チリにおけるフェミニズムの動きを明らかにし、その視座と実践の特徴を考察することである。まず、新自由主義と結託した家父長制の暴力に対抗するチリのフェミニズムの思想的特徴と、2018年からはじまったフェミニズム運動の大きな社会的なうねりを概観する。次に、2020年国際女性デーにおいて歴史的規模の集会を成功させ、「集う」ことを力にしてきたチリのフェミニストたちのコロナ禍における活動について検討する。対象としてはチリのフェミニズム運動を牽引するグループのひとつである「コルディナドーラ・フェミニスタ・8M (CF8M)」を取り上げる。コロナ禍以前よりSNSを活用していたCF8Mは、パンデミック下においてもオンラインでの活動を積極的に継続し、同時に実際のコミュニティへの支援にもつなげている。CF8Mはコロナ危機を、かつて軍事政権が推し進め、今日でもチリの経済政策の主軸となっている新自由主義がもたらした構造的な問題として捉えられている。CF8Mの活動は、家父長制と新自由主義がもたらした「生活の不安定化」への対抗実践という性格を有する。さらに、経済的利益を最優先する新自由主義と資本主義オルタナティブとして、命、健康とケアを重視するフェミニストの価値観が提唱されていることも特徴である。

キーワード：チリ、コロナ、フェミニズム、新自由主義、女性運動

### はじめに——本稿の背景と目的

本稿では新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミック下の南米チリにおけるフェミニズムの動向を明らかにし、その視座と実践の特徴について考察する。

チリ国内で初の新型コロナウイルス感染者が確認されたのは2020年3月3日である。その後、感染は急速に拡大し、同月中旬には「カタストロフィー（大災害）事態」が宣言され、夜間外出禁止、義務的在宅措置等のロックダウン状態となる。ロイターの運営する「COVID-19 TRACER」（Reuters 2021）によれば

2021年3月15日までにチリで報告されたCOVID-19感染者は約900,782名、死者は21,789名に上っている。

感染症への脆弱性は医学的・生物学的であると同時に社会的・文化的なものであることが指摘されているが（JICA 人間開発部 2018）、今日のCOVID-19の世界のパンデミックにおいても、感染症がもたらす個人々人への影響は、人種やエスニシティ、ジェンダー、社会経済的階層などに基づいた、平時から存在する不平等と密接に関連するという報告が蓄積されている（OECD 2020 等）。2020年10月時点においてCOVID-19感染者数の世界上位10カ国のうち、5カ国はラテンアメリカ諸国であり、世界の総人口に占めるシェアがわずか8%であるにもかかわらず、パンデミックによる死者では世界の34%を占めている。その大きな理由として指摘されるのがラテンアメリカ諸国の貧困である。コロナ禍によって貧困層が5200万人増加し、新たに4000万人が職を失った可能性があるという。特に深刻な影響を受けているのが、女性と先住民である（Reuters Staff 2020）。

このような未曾有の状況で、ジェンダーに基づく不平等の是正を目指し活動するチリのフェミニストたちは、かなり早い段階から行動を起こしていた。本稿で主に取り上げるのは当地のフェミニズム運動を牽引しているグループのひとつ「コルディナドーラ・フェミニスタ・8M（Coordinadora Feminista 8M；以下、CF8Mと略す）」である。チリのフェミニストたちはどのような視点から、どのような手段で、この困難に対処しようとしているのだろうか。その思想と活動はチリ社会の歴史的・政治的状況とどのように関わっているのだろうか。これらの問いに答えるために、本稿ではまずチリにおけるフェミニズム運動の歴史を概観した上で、CF8Mの活動とその背景になる思想の分析を通じて、パンデミック下のチリ・フェミニズムの特徴を示したい。主な分析・考察の対象は、CF8Mの公式Webサイト（<http://cf8m.cl/>）、公式Instagram（<https://www.instagram.com/coordinadorafeminista8m/>）、公式Facebook（<https://www.facebook.com/coordinadorafeminista8M/>）、公式Twitter（<https://twitter.com/Coordinadora8m>）、および機関誌『La Primera』の内容である。

## 1. 新自由主義と家父長制に対抗するチリ・フェミニズム

チリ社会は、公的にはカトリックの教義に基づく道徳規範と社会通念が広く保持され、私的空間である家庭では、家父長制的男性支配の慣習が主流であった（杉山 2015）。南米一保守的な国とも言われるチリでは、離婚の権利は2004年に認められたばかりであり、2017年まで人工妊娠中絶は理由を問わず禁止されていた<sup>1)</sup>。チリのフェミニストたちは、このような保守的な社会を支える家父長制を

批判する一方、女性の生活を不安定化させる原因として、チリ政府の推進する新自由主義モデルを指摘してきた(Gaudichaud and Nogué 2020)。新自由主義とは、国家による福祉・公共サービスを縮小・民営化<sup>2)</sup>し、規制緩和による市場の自由競争を重視する経済思想である。ピノチェト軍事政権下(1974～90年)では、アメリカ・シカゴ学派の経済学者らが財務顧問として招かれ、「新自由主義の実験場」と呼ばれるほどの徹底した新自由経済政策がとられた。新自由主義に基づく規制撤廃、財政健全化、民間部門拡大などの経済運営路線はチリ経済の高成長率と低インフレ率をもたらした(三菱UFJリサーチ & コンサルティング調査部2009)。「チリの奇跡」と称される経済的発展が実現した。民政移管後も新自由主義経済政策は引き継がれ、安定した経済成長を続けたチリは「南米の優等生」として2010年に経済開発協力機構(OECD)に南米諸国で初めて加盟した。

しかし、新自由主義にもとづく経済発展は、国民の間の格差の拡大と高い失業率という結果も伴っていた。チリにおいては水道、電気といったインフラのほか、年金、医療保険などの社会保障、教育などの事業が民営化されており、大学教育費の家計負担割合はOECD加盟国の中で上位に位置する。多くの学生はローンを組むが、賃金のジェンダー格差のためにその負担は相対的に女性に重くのしかかる。医療アクセスの点では民間保険会社は妊娠可能性という「リスク」を理由に女性を差別的に扱っており、また、民間年金制度はジェンダー不平等な就業構造を反映し女性に不利益を生じさせている。チリのフェミニズム運動にとって、女性に対する支配と暴力は新自由主義モデルの一部であり、独裁政権の遺産である(Gaudichaud and Nogué 2020)。

## 2. 2018年以降のフェミニズムの高潮

### 2-1. 女子学生によるキャンパス占拠運動

2018年以降、チリ社会は歴史的なフェミニズム運動の高潮期にある。2018年4月、女子学生らのセクシャルハラスメントの告発を皮切りに、キャンパスで続いてきた性暴力への抗議のため、女子学生らが全国各地の大学を占拠する「フェミニストによる占拠 *tomas feministas*」運動が始まった。女子学生らはキャンパスを封鎖して立てこもり、加害者の処罰と被害者の正義回復、女性の性的・身体の自由、そして性差別のない教育の実現を要求した(写真1)。同年5月16日には、サンティアゴ市内で女子学生たちによる大規模なデモが行われ、2011年に盛り上がった学費無料化運動以来、もっとも多くの参加者を集めた(主催者チリ学生連合の発表で15万人、警察発表では2万5000人)。この運動は首都サンティアゴの他、アントファガスタ、バルパライソ、コンセプション、テムコ、バルディ

ピアなど、全国の各都市にも広がった。一連の行動はマスコミでも大きく取り上げられ、女子学生たちの姿は新聞の一面を飾り、テレビやラジオでは討論番組も企画されるなど、このムーブメントは「tsunami」に形容される社会的インパクトをもたらした。



写真1 占拠中の国立チリ大学キャンパスの様子（2018年5月16日筆者撮影）

この運動により、加害者として告発された著名な大学教授がキャンパスを追われた他、各大学がキャンパス内でのセクハラや性暴力を防ぐためのガイドラインを整備することになる。運動の影響はキャンパス内にとどまらず、中道右派でジェンダー政策に消極的なピネーラ現大統領があらゆる分野でジェンダー平等を達成するための「女性アジェンダ Agenda Mujer」を宣言するという政策的成果をも引き出した。

ここで、Reyes-Housholder and Roque (2019) から、2012年から2018年にフェミニストによって行われた抗議活動件数を見てみよう（図1）。期間平均すると年間19件であり、2016年は国境を越えた「#NiUnaMenos（ニウナメノス）」運動<sup>3)</sup>によって活動が活発化し46件となったが、2018年には151件という突出

した抗議活動件数が記録されている。地域別に見ると首都サンティアゴのある首都州で 34 件、北部のアントファガスタ州 18 件、南部のロスリオス州で 17 件と、地方部でも活動が行われていることが分かる。このようにチリにおけるフェミニズムが急激に活発化した 2018 年は「フェミニズムの年 el año del feminismo」(Reyes-Housholder and Roque 2019 他) と呼ばれている。

## 2-2. 「レイピストはお前だ」——性暴力告発のダンス

また、2019 年後半には、チリの沿岸都市バルパライソを拠点とするフェミニストグループ「ラス・テシス Las Tesis」<sup>4)</sup> が創作した性暴力への抗議パフォーマンス「あなたの行く先にいるレイピスト Un violador en tu camino」がソーシャルメディア上で大きな反響を巻き起こした。このタイトルは「あなたの道にいる友人 Un amigo en tu camino」という、チリ警察のキャッチフレーズを改編したものである。このパフォーマンスは、性暴力においては被害者側の落ち度が非難され警察すら加害者となる状況を批判し、警察を含む国家権力と家父長制は一体となって女性の身体を侵害する「レイピスト」であると名指しする。家父長制、法制度、国家権力を「マチスタ (男性優位主義者)<sup>5)</sup>」であり「女性に対する性的加害者」として告発する歌に合わせて群舞するこの抗議パフォーマンスは、趣旨に賛同する女性たちによって世界各国で実践された。これまでフェミニズム運動は欧米が世界的な中心であると捉えられることが多かったが、ラテンアメリカ

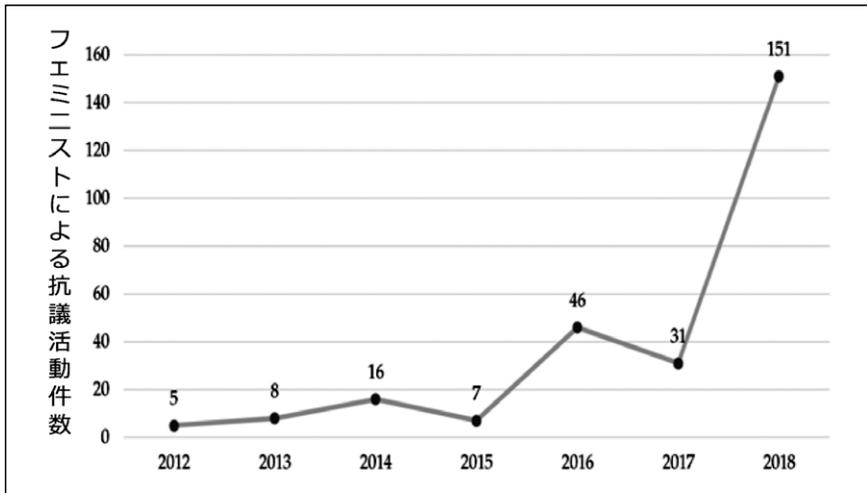


図1 2012年～2018年のフェミニストによる抗議活動の件数の推移  
(出典：Reyes-Housholder and Roque 2019. 一部日本語に訳した)

の一地方都市から生まれた性暴力に対する抗議行動がグローバルな影響力を及ぼすようになったのは、ソーシャルネットワークサービス（SNS）を通じたトランスナショナルなフェミニズムの連帯が生まれていることを意味していよう。

### 2-3. 地下鉄値上げ反対運動から大規模な反政府運動へ

2019年10月、首都サンティアゴの地下鉄会社が燃料価格の高騰などを理由として運賃の値上げを発表し、これに反対する女子高校生らが地下鉄の駅を占拠する抗議活動を始めた。この彼女たちの抗議が引き金となり、全国規模の反政府デモが巻き起こった。運賃値上げは撤回されたが、人々が真に求めたのはこの数十年チリ社会をむしばんできた新自由主義の是正であった。抗議活動は軍事政権下で制定された憲法の改正運動へと展開する。一連の運動にはCF8Mをはじめとする女性アクティビストが多数参加している。CF8Mは中絶の全面的な非犯罪化、性差別的でない教育、水道民営化の廃止、多民族性と先住民の権利などを盛り込んだ「フェミニスト憲法」を提案するなど、新自由主義と家父長制に対抗するチリ・フェミニズムの視点を強く打ち出している（Coordinadora Feminista 8M 2020a, Gaudichaud and Nogué 2020）<sup>6)</sup>。

以上、チリ社会の歴史的状況とフェミニズムの関係を整理しながら、近年チリにおいてフェミニズムが勢いを増し、反新自由主義の思想と強く関係しながら展開している状況を概括した。このような背景を踏まえた上で、次章からはパンデミック下においてチリのフェミニズムの動向について、CF8Mの活動を事例として検討していく。特にコロナ危機に対する初動に着目するため、以下では主にチリにおけるパンデミックの初期にあたる2020年3月から6月にかけての動向を取り上げる。

## 3. パンデミックと闘うフェミニズム

### ——コルディナドーラ・フェミニスタ・8Mの思索と実践

CF8Mは、2016年頃よりチリにおける国際女性デー「8M」（スペイン語ではEl 8 de marzo, 8Mと略す）マーチのイニシアチブを取ってきたフェミニストグループである。2020年3月8日の8Mマーチでは200万人以上（主催者発表）という歴史的規模の集会を実現させている。

公式サイト「私たちについて」（Coordinadora Feminista 8M 2020b）によれば、CF8Mはフェミニストの視野に立って、多種多様な社会組織や政治組織、個人をつなげる「場 espacio」であると自らの立ち位置を宣言し、さまざまな組織同士の出会い、対話、協働を促すために、フェミニズムを社会運動の横断的な

政治的視点および実践とすることを目指している。これは新自由主義社会における「生活の不安定化 la precarización de la vida」に対抗する、「大多数のためのフェミニズム un feminismo de mayorías<sup>7)</sup>」という視座にもとづくモビライゼーションを推進するためであるという。CF8Mはチリ国内の女性団体、フェミニスト団体のほか、アルゼンチン、ボリビア、ウルグアイ、エクアドル、メキシコ、アメリカ、イタリアといった諸外国の団体とも連帯関係にある (Coordinadora Feminista 8M 2020c)。

CF8Mはパンデミック以前よりオンラインでの活動を行っている。特にSNSを積極的に活用しているのがその大きな特徴である。各SNSにおけるCF8Mアカウントのフォロワー数は2021年3月18日現在、Instagramでは22.9万、Facebookでは84万件、Twitterでは3.9万件となっており、オンライン上の活動においても大きな影響力を持っている。

### 3-1. 「コロナウイルスに対するフェミニスト緊急プラン」の提起

CF8Mはチリ国内で感染者が確認されてから間もない2020年3月19日付で「コロナウイルスに対するフェミニスト緊急プラン」を公式Facebook上で発表する (Coordinadora Feminista 8M 2020d)<sup>8)</sup>。CF8MがCOVID-19に関して公式に活動を展開するのはこの「緊急プラン」の公表が最初である。この「緊急プラン」は他のフェミニスト団体らとの協働で案が作成され、「彼ら<sup>9)</sup>の(経済的)利益よりも私たちのケアを」というスローガンに基づいた一連の方策を提言したものである (Coordinadora Feminista 8M 2020e)。「緊急プラン」冒頭には、次のようにその趣旨が説明されている。

コロナウイルスがもたらした緊急事態にあたって、「フェミニスト緊急プラン」は、企業の利益よりも健康、生命、ケアを優先しなければなりません。そして、ケアを担う人々が置かれている状況を可視化する必要もあります。私たちは、不安定性を、家父長的で人種差別的な暴力を、そして世界規模の生態学的危機を、そしてケアの危機を激化させる危機に直面しています。

このような状況における一連の出来事に直面し、私たちは自分自身を大切にするために、そして反資本主義的でフェミニスト的な視点から、人々にオルタナティブを模索し、実現するための行動を始めようと呼びかけるために、このプランを提起します (Coordinadora Feminista 8M 2020f)。

4ページに渡るこの「緊急プラン」は4つの項目に分かれている。以下、要約した内容を記載する。

## 1) 地域のケア戦略

——コミュニティレベルでのフェミニスト的視点に基づく自助コレクティブの形成

- ・ソーシャルディスタンスを維持しながらも 2019 年 10 月以降の政府に対する抗議活動<sup>10)</sup>によって深められた「連帯と相互扶助 la solidaridad y apoyo mutuo」を維持し、ローカルなコミュニティのネットワークを深め、「誰も置き去りにしない」対策を求める。
- ・地域コミュニティにおけるハイリスク群の調査を求める。
- ・医療従事者など、仕事を続ける親を持つ子どものためのケアチーム結成を求める。

## 2) 家父長的暴力に対抗するフェミニストたち

——外出制限下において女性、性別違和を持つ人、子ども、若者がさらされるリスクを可視化し、対処していくための戦略

## 3) 「命を守る」ためのゼネラルストライキ

——私たちは家にとどまる権利を求めて団結する

- ・医療、ケア、物流以外の生産活動のストライキを呼びかける。
- ・インフォーマルセクターの家事労働者の保護を要求する。
- ・正規／非正規、国籍、移民労働か否かを問わない公的資金による経済援助を要求する。
- ・育児中のリモートワーカーの加重負担への配慮（育児を「仕事」と見なすこと）を求める。

## 4) 緊急対策——「彼らの利益よりも私たちのケアを」

- ・この緊急事態は、利益ではなく健康を最優先にする局面である。私たちの命には価値がある。
- ・感染者看護のための有給休暇の確保を要求する（非正規雇用、移民、インフォーマルセクターの労働者も含む）。
- ・貧困層が医療へアクセスする手段の確保を要求する。
- ・パンデミックを理由とした解雇の禁止を求める。
- ・生活必需品や感染予防商品の価格凍結を求める。

(Coordinadora Feminista 8M 2020f より要約・翻訳)

自宅隔離下において女性や子どもがDVにさらされるリスクへの配慮、保育園も閉鎖されたことによって生じる自宅保育の負担への配慮、生活必需品の価格凍結など、社会的に不安定な状況におかれる女性たちや市民生活の全般に幅広い目配りがなされていることが分かるだろう。

さらに、CF8Mが策定したこの「緊急プラン」は、パンデミックが女性や子ども、マイノリティにもたらす危機は、資本主義、新自由主義、そして家父長制と強く結びついているという視点に基づいている。チリにおいては新自由主義的政策のために公的医療制度が脆弱であり、平時から公立病院の医療提供能力が低いこと、公衆衛生に関する政府支出が少ないことなどが、コロナ危機を増幅させている(Dragic 2020)。感染症が単に生物学的現象ではなく、社会的、文化的現象でもある特質を踏まえ、新自由主義がもたらした経済利益を至上とする価値観を脱して、「彼らの(経済的)利益より私たちのケアを」というスローガンが象徴するようなケアや命を最優先にするという価値観への社会的な転換がこの「プラン」の射程に入っている。

### 3-2. フェミニストの視点からのオンラインイベントの開催

コロナ禍以前、チリのフェミニズムは国際女性デーにおいて歴史的規模のマーチを実現させ、マチスモ文化への抗議を可視化させるなど、女性たちが実際に「集う」ことを社会変革の力にしてきた。同時に、このマーチを主導したCF8Mはコロナ禍以前からインターネット、特にSNSを活用した活動も行ってきた。これによって、実際に人々が「集う」ことが制限されたパンデミック下においても、様々な活動をオンラインで即座に展開することができた。CF8Mはフェミニズムの視点からのオンラインセミナーやオンラインイベントを多数開催している。2020年4月から6月末までの3ヶ月間にCF8Mが主催・共催・メンバーの参加等に関わったオンラインイベントは10企画にも上る<sup>11)</sup>。パンデミック下において国内外の移動が強く制限されるなか、オンラインの特性を活かした国際イベント、特にラテンアメリカ諸国のフェミニズムグループとの共同企画も多数見られる。さらに、先住民マプーチェの女性や移民の女性との連帯も重視されており、インターセクショナル・フェミニズムの性格も指摘できる。これらのイベントでは主にZoomが用いられ、Facebook Live, Instagram, YouTubeの動画配信サービスによってリアルタイムで世界中に配信されている。とりわけ2020年5月1日のメーデー企画は50人のパネリストによる11時間に及ぶ大規模なもので、4,500人もの参加者を集めた(Coordinadora Feminista 8M 2020g)。

イベントの主催以外にも、オンライン版機関誌『La Primera』の発行、ストライキの呼びかけ、メンバーによるコラムの投稿、フェミサイドへの抗議との被害者の追悼、一部パフォーマンスが「憎悪の扇動」と見なされ警察から告発された「ラス・テシス」への連帯、アルゼンチンの人工妊娠中絶合法化運動への連帯など、ほぼ連日SNSへの投稿を行っている。

### 3.3. オンラインとオフラインの協働

#### —— 抵抗とフェミニスト的連帯のための「笑い」

コロナ禍のフェミニズム運動に関するメキシコを対象とした研究によれば、フェミニストたちはインターネットを活用して活動を進めると同時に、実際のコミュニティにおいても活動している。例えば、メキシコのフェミニストグループは、DVの増加、食料・医薬品・その他の生活必需品の不足という地域レベルでのパンデミックの深刻な社会経済的影響に対処するために、各地で連帯ネットワークを構築している (Ventura 2020)。チリのCF8Mも同様であり、SNS上で活発に活動するだけでなく、オフラインのコミュニティへの支援も行っている。2020年6月10日にはオンライン・コメディショー「オジャ・コメディア (コメディアン鍋)」を開催した。これはCF8Mが17名の女性スタンドアップコメディアンとともに開催したチャリティー・イベントである。このイベントの目的はパンデミック下で苦境に立たされている女性 (特にインフォーマルセクターの労働者、家事労働者、セックスワーカー、移民) を支援し、サンティアゴ郊外のバホス・デ・メナ、バリオ・ユンガイ等、貧困層が多く住む地区で行われる「オジャス・コムーネス ollas comunes」の活動への寄付金を集めることである (Coordinadora Feminista 8M 2020h)。オジャス・コムーネスは直訳すれば「コミュニティの鍋」であり、「炊き出し」活動を意味する。視聴者はチケット販売サイトを通じて、3,000 チリペソ (約 458 円)、20,000 チリペソ (約 3,054 円)、50,000 チリペソ (約 7,632 円) という3種類の値段のチケットから、希望する寄付金額のものを購入するという仕組みである。「笑いは抵抗であり連帯である La risa es resistencia y solidaridad」というタイトルが付けられた公式 Facebook への投稿によると、このイベントを通じて1000万チリペソ以上 (約 152 万円) もの支援金が集まった (Coordinadora Feminista 8M 2020i, El Mostrador Braga 2020)。

チリにおけるオジャス・コムーネスの歴史は古く、1930年代より貧困地区において行われてきた。オジャス・コムーネスの主な担い手は歴史的に女性である。軍事政権下においては女性は家庭を守る妻・母親としての役割を果たすことを期待され (杉山 2015)、社会的活動が制限されたが、オジャス・コムーネスは料理を担当する母や妻という母性主義的で保守的なジェンダー規範に親和的であったため、女性が参加しやすかった。女性に求められた従順さを損なわない活動と見做されていたオジャス・コムーネスであるが、参加した女性たちは、共同調理や空間の衛生管理、意思決定とマネジメントにおける主体的な役割を担うことになり、このことが女性の公共空間における役割の拡大に寄与したとその意義が指摘されている (Palacios 2020)。

このような背景を持つオジャス・コムーネスは、パンデミック下においては生産性と経済的利益を最優先させる新自由主義社会システムの変革の可能性があるを持つフェミニスト的な活動という新たな意味づけがなされている。つまり、生産性よりも「いのちのケア」を、個人主義よりもコミュニティを優先するという、フェミニズムの視点からの抵抗と社会変革の実践としての可能性である (Palacios 2020)。

このオジャス・コムーネスへの支援に際して、CF8Mは「この飢えと貧困はパンデミックによって始まったのではなく、今日ではより明確になったように、生活を不安定化させるシステムが引き起こした危機であることを私たちは知っている」(Coordinadora Feminista 8M 2020h) と述べる。コロナ禍における困窮の背景には資本主義と新自由主義の構造があるという視座に立ち、経済的利益と生産性ではなく命・健康・ケアを最優先するオルタナティブな価値観を、オジャス・コムーネスを通じて提示したといえよう。

## おわりに

本稿では、COVID-19 パンデミック下のチリのフェミニズムの動向について検討した。チリのフェミニズムは、当地の歴史的状況状況を反映し、家父長制と結託した新自由主義への異議申し立てという性質を有してきた。2018年以降チリ社会をフェミニズムの波が席卷し、その思想と活動は社会の市民的変革を推進する主要なパワーとなってきた。そのうねりのただ中に始まったパンデミックにおいて、CF8Mは、オンラインでの活動を積極的に続け、SNSを駆使してフェミニスト視点に基づく情報を発信し、オンライン上に女性たちが「集う」場を構築している。さらにCF8Mの活動はオンライン上にとどまらず、地域コミュニティの中で困窮する女性やマイノリティへの直接支援も行われている。

チリのフェミニズムにおいて、コロナ危機は、かつて軍事政権が推し進め、今日でもチリの経済政策の主軸である新自由主義がもたらした構造的な問題として捉えられている。その思想と活動は、新自由主義がもたらした、コロナ禍が浮き彫りにした「生活の不安定化」への対抗実践という性格を有する。さらに、経済的利益を最優先する新自由主義と資本主義オルタナティブとして、命、健康とケアを重視するフェミニスト的価値観が提唱されていることも大きな特徴といえよう。

現在、日本においてもコロナ禍の中で「女性不況」が進み、特に非正規雇用の女性やシングルマザー家庭の困窮が深刻化している (上野 2021)。コロナ禍における日本の女性の困窮は、新自由主義と家父長制に支えられた日本型雇用がもた

らす平時のジェンダー不平等が背景になっているという点で、チリのそれと通底する。新自由主義に対峙するチリのフェミニズムの視座と活動は、日本社会の現状を是正するための示唆を与えるものである。

(やなぎわら めぐみ 立命館大学)

謝辞：本研究は JSPS 科研費 19K20589 の助成を受けたものである。また、本稿の執筆にあたり助言を賜った浅倉寛子氏、洲崎圭子氏へ深く感謝申し上げる。なお、本研究の一部はジェンダー史学会第 17 回年次大会部会 D（パネル報告）「パンデミック期に再考する社会運動——フェミニスト歴史学者の視座から」（2020 年 12 月 13 日）において報告された内容に基づいている。

【注】

- 1) 2017 年、女性大統領ミシェル・バチュレのイニシアチブのもとで、妊婦に生命の危機がある、母体外で胎児が生存できない、レイプによる妊娠であるという 3 つの場合に限り人工妊娠中絶が合法化された。
- 2) 一般的に、英語の「privatization」の訳として「民営化」という訳があてられるが、よりの確には「私企業化」あるいは「私有化」という訳語がよりの確であろう。
- 3) アルゼンチンから始まった「フェミサイド（ジェンダーに基づく暴力である、女性を標的にした殺人）」への抗議運動。
- 4) エクアドル在住のアーティスト岩間香純が Las tesis へのインタビューをおこなっている（岩間 2020）。
- 5) スペイン語で「雄の」「男らしい」を意味する「macho」に由来する語である。
- 6) この運動によって 2020 年 10 月に憲法改正の是非を問う国民投票が実現、78% の賛成を得て憲法改正および市民による草案の起草が決定した。新憲法起草委員会は男性 78 人、女性 77 人と男女均等であり、CF8M のメンバーも委員に選ばれている（Bustos 2021）。また、2021 年 7 月には先住民マプーチェの女性で言語学者のエリサ・ロンコンが議長として選出された。
- 7) 白人や富裕層といった特権を持つ少数の人々のためのフェミニズムではなく、ラテンアメリカにおいて多数派（mayorías）である非白人、メスティーソ、貧困層、労働者といった、相対的に特権を持たない人々のためのフェミニズムを指す。C. アルツァ他『99%のためのフェミニズム宣言』において著者らが主張する、「私たちのフェミニズムは大多数の要求と権利を擁護する。ここで言う大多数とは、貧しい女性たちであり、労働者階級の女性たちであり、人種化された女性たちであり、移民の女性たちであり、クィアやトランスジェンダーの女性たちであり、障害を持つ女性たちであり、資本に搾取されているにも関わらず、『中産階級』の自負を抱くよう促されてきた女性たち」（C. アルツァ他 2018=2020: 33-34）という「多数派」に関する説明とも通底しよう。
- 8) 同年 4 月 27 日には公式サイトにも掲載されている。
- 9) 新自由主義によって利益を得てきた企業、経営者、資本家を指す。
- 10) 2-3 参照。
- 11) CF8M 公式 Facebook および公式 Instagram 上の投稿からカウントした。

[引用文献]

- Bustos, A. 2021 Feminismo en la Constitución: mujeres electas adelantan debates esenciales del proceso. *Diario Uchile*. <https://radio.uchile.cl/2021/06/05/feminismo-en-la-constitucion-mujeres-electas-adelantan-debates-esenciales-del-proceso/> (2021年7月5日最終アクセス)
- C. アルツァー・T. バタチャーリャ・N. フレイザー 2020 『99%のためのフェミニズム宣言』 恵愛由訳, 人文書院
- Coordinadora Feminista 8M 2020a ¡Saltamos todos los torniquetes! Aprobamos Convención Constitucional. *La Primera*, 7. <https://cf8m.cl/wp-content/uploads/2020/09/La-Primera-Septiembre-2020.pdf> (2021年7月5日最終アクセス)
- Coordinadora Feminista 8M 2020b Quiénes Somos. CF8M 公式 Web サイト <http://cf8m.cl/quienes-somos/> (2021年3月18日最終アクセス)
- Coordinadora Feminista 8M 2020c Este es un espacio feminista, transfeminista y antipatriarcal en expansión y les invitamos a uniros o a contactarnos si queréis ser parte. CF8M 公式 Facebook <https://www.facebook.com/coordinadorafeminista8M/posts/2899934800233285/> (2021年3月20日最終アクセス)
- Coordinadora Feminista 8M 2020d Plan de emergencia Feminista ante las medidas de Piñera - Nuestro cuidado sobre sus ganancias. CF8M 公式 Facebook <https://www.facebook.com/coordinadorafeminista8M/posts/2871127369780695> (2021年3月18日最終アクセス)
- Coordinadora Feminista 8M 2020e La CF8M en Prensa Internacional. CF8M 公式 Facebook <https://www.facebook.com/coordinadorafeminista8M/photos/a.2267926310100807/2890552781171487/> (2021年3月20日最終アクセス)
- Coordinadora Feminista 8M 2020f Plan de emergencia feminista ante crisis Coronavirus. CF8M 公式 Web サイト <http://cf8m.cl/wp-content/uploads/2020/04/plan-de-emergencia-feminista-ante-crisis-coronavirus-1.pdf> (2021年3月18日最終アクセス)
- Coordinadora Feminista 8M 2020g Cierre de transmisiones. CF8M 公式 Facebook <https://www.facebook.com/coordinadorafeminista8M/posts/2911894882370610/> (2021年3月20日最終アクセス)
- Coordinadora Feminista 8M 2020h Olla Comedia. CF8M 公式 Facebook <https://www.facebook.com/coordinadorafeminista8M/posts/2946687092224722/> (2021年3月18日最終アクセス)
- Coordinadora Feminista 8M 2020i La risa es resistencia y solidaridad. CF8M 公式 Facebook <https://www.facebook.com/coordinadorafeminista8M/posts/2950337071859724> (2021年3月20日最終アクセス)
- Dragnic, M. 2020 Crisis of Wellbeing and Popular Uprising: The Logic of Care as a Path to Social Emancipation in Chile. *Journal of Latin American Cultural Studies*, 29(2).
- El Mostrador Braga 2020 Comediantes y feministas reunieron más de 10 millones de pesos para colaborar con ollas comunes. *El Mostrador*. <https://www.elmostrador.cl/braga/2020/06/12/comediantes-y-feministas-reunieron-mas-de-10-millones-de-pesos-para-colaborar-con-ollas-comunes/> (2021年3月18日最終アクセス)
- Gaudichaud, F. and Nogué, A. 2020 « Sans féminisme, il n'y a pas de démocratie »: réflexions sur le nouvel élan des mobilisations féministes au Chili. *Revue internationale et stratégique*, 119.
- 岩間香純 2020 「世界も警察も注目するチリのフェミニスト・コレクティブ Lastesis」 岩間香純 note <https://note.com/kiwama/n/n105ebc82f388> (2021年3月20日最終アクセス)
- JICA 人間開発部 2018 「感染症対策におけるジェンダー主流化」 国際協力機構
- Manzi, J., and Carrillo, A. 2020 Lucha feminista en tiempos de pandemia. <https://www.theclinic>.

- cl/2020/04/09/columna-lucha-feminista-en-tiempos-de-pandemia-la-continuidad-de-nuestra-revuelta-a-un-mes-del-8m/?fbclid=IwAR2EBI07AHia786n98z8-emkEBdW3QmRxYTL5-sWWw5-ReDr-yCWEOLloD54 (2021 年 3 月 20 日最終アクセス)
- 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング調査部 2009 「チリ経済——南米随一の堅調さの背景」三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング <http://www.3keizaireport.com/report.php/RID/86214/> (2021 年 7 月 5 日最終アクセス)
- OECD 2020 「コロナウイルス危機との闘いの前線にいる女性たち」 OECD <https://www.oecd.org/coronavirus/policy-responses/women-at-the-core-of-the-fight-against-covid-19-crisis-51b485d5/> (2021 年 7 月 6 日最終アクセス)
- Palacios, F. 2020 La participación y rol de las mujeres de sectores populares en ollas comunes. *Redes comunitarias y de economía solidaria frente a la pandemia*, Universidad de Las Américas.
- Reuters 2021 「チリにおける新型コロナウイルスの感染状況・グラフ」 COVID-19 TRACKER <https://graphics.reuters.com/world-coronavirus-tracker-and-maps/ja/countries-and-territories/chile/> (2021 年 3 月 20 日最終アクセス)
- Reuters Staff 2020 「アングル：中南米に広がるコロナ禍の貧困 破れる中産階級の夢」ロイター <https://jp.reuters.com/article/health-coronavirus-latam-poverty-idJPKBN26T1R3> (2021 年 3 月 20 日最終アクセス)
- Reyes-Housholder, C., and Roque, B. 2019 Chile 2018: desafíos al poder de género desde la calle hasta La Moneda. *Revista de ciencia política*, 39 (2).
- 杉山知子 2015 「チリ——女性大統領の誕生と政治環境」国本伊代編『ラテンアメリカ 21 世紀の社会と女性』新評論
- 上野千鶴子 2021 「コロナ禍とジェンダー 2——『ジェンダー不況』のもとで」森達也編著『定点観測 新型コロナウイルスと私たちの社会 2020 年後半』論創社
- Ventura, M. 2020 Feminist solidarity networks have multiplied since the COVID-19 outbreak in Mexico. *Interface: A Journal on Social Movements*, 12 (1).

(2021 年 7 月 10 日掲載決定)

## **Feminist Perspectives and Practices during COVID-19: A Case Study of a Feminist Group in Chile**

YANAGIWARA Megumi

(Ritsumeikan University)

This study aimed to ascertain the characteristics of the feminist movement in Chile during the COVID-19 pandemic. It focuses on the Coordinadora Feminista 8M (CF8M) and evaluates this prominent Chilean feminist group's activities during the early stages of the pandemic, between March and June 2020. The paper begins with an overview of the feminist struggle against the patriarchal violence colluded with neoliberalism and the contemporary feminist movement initiated by campus-based protests against sexual violence in Chile in 2018. The paper reviews the context of feminism in Chilean society to discuss the means and perspectives used by Chilean feminists during the pandemic; further, it analyzes the CF8M movement as a case study. CF8M was active on social media before COVID-19 and has continued to use the internet throughout the pandemic. The group's strategy showcases feminist counter-practices against the hazards that result from capitalism and neoliberalism and the patriarchal violence exacerbated by the pandemic.

**Keywords:** Chile, COVID-19, feminism, neoliberalism, women's movement